

お知らせ

女流表現の美学とは？！

2014年11月22日（土）、木村信司氏（宝塚歌劇団演出家）、ひうらさとる氏（漫画家）、山村若峯董芳恵氏（山村流上方舞）、福井栄一氏（上方文化評論家）をお招きし、阪神間ルネッサンスVI 燦（きら）めいて雅（みやび）ー女流表現の美学ーと題して、秋季シンポジウムを開催いたしました。

○講演1「舞を通しての女性の美しさ」

山村流新進気鋭の舞踊家 山村若峯董芳恵（やまむらわかほうどうよしえ）先生に、上方舞の型や四畳半で舞いきる簡素な振り付けのカッコヨサについてお話ししていただきました。

○講演2「“干物女（ひものおんな）” 的処世術」

女流漫画家のひうらさとる先生に、ドラマ化と映画化された話題作「ホテルノヒカリ」にみる人間像や女性としての幸せなどをお話しいただきました。また、話題作を生み出し続けるためのワークライフバランスやマンガ家になるための道のりについてもお聞きしました。

○対談「女性の燦めきについて考える」

宝塚歌劇団演出家の木村信司先生が所長森田と対談し、栄光のトップスターの燦めき、宝塚の舞台裏、演出としての工夫やNYでの留学の話などを探りました。木村先生のトークによる会場演出により、終始笑いの絶えない対談となりました。

○パネルディスカッション

上方文化評論家の福井栄一先生も加わり、竹島研究員のコーディネートにより、女流表現の美学について探求しました。パネルディスカッションの一場面では、山村先生に扇子を使った簡単な舞を会場のみなさまにご指導いただきました。秋の紅葉シーズン、さまざまな分野のみなさまに参加いただき、女流表現の美学について討議し、とても実りある、有意義な時間となりました。

